

## 呼吸器科専攻医カリキュラム

### 1. 研修目的

急性期または慢性期の呼吸器疾患に対する診断と治療および患者様へのインフォームや教育が出来るようになるための能力を身につける。

リスクを伴う処置や治療においては上級医の指導の下で経験をつみ、リスクの回避や対応方法を身につける。

患者様だけでなくご家族の心情にも配慮することを心がける。

他科の医師とも積極的に連携をもち、医師以外の他職種の方とチームを組んで医療にあたることを意識する。

医学生や研修医に対して適切な指導ができるようになる。

(A コース)：日本内科学会認定医、日本呼吸器内視鏡学会認定医さらには日本呼吸器学会専門医、日本アレルギー学会専門医を目指すストレート研修

(B コース)：初期研修で十分研修できなかった一般臨床医としての呼吸器疾患を理解するための数ヶ月単位の研修

### 2. 研修内容

指導医の下で主たる主治医として入院患者の診察、診断および治療に従事し、以下の項目について研修する。

(1) 初期研修プログラムの研修内容を完成する。

(2) 主治医として入院患者に対して以下の診療ができる。

問診、理学的所見、画像より臨床診断をあげ、鑑別診断ができる。

problem list の作成

確定診断に至るための検査計画(気管支鏡など)の作成

補助的検査(特殊な画像検査や血清学的検査など)の指示の遂行

確定診断に基づいた治療方針の決定と遂行

適切なインフォームド・コンセント

他科受診が必要であるときの迅速な対応と適切な紹介状の作成

医療評価ができる診療録と速やかな退院時要約書の作成

(3) 習得すべき技術および手技

びまん性肺疾患の画像診断

特殊な肺感染症や稀な疾患の画像診断

アストグラフ、HOT メイト、オキシコン、ポリソムノグラフィー

NIPPV

在宅酸素療法

気管支喘息や肺気腫患者に対する治療と自己管理指導

禁煙指導

救急患者(喘息発作や慢性呼吸不全の急性増悪時など)に対する治療の実践

悪性疾患に対するインフォームの方法

肺癌症例に対する化学療法や放射線治療の立案

疼痛緩和などターミナルケアの実践

呼吸器内視鏡

T B B , T B L B , B A L , T o i l e t , 塞栓術、超音波

B コースにおいては悪性疾患に対するインフォームと治療の立案は除く

### 3. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	回診	外来科学療法	外来	回診、抄読会	回診
午後	病棟業務、 午後6時30分病棟カンファレンス	病棟アストグラフ	B F 午後5時15分内科カンファレンス	病棟アストグラフ	B F

呼吸器カンファレンス 1回/月

愛媛大学放射線科との合同カンファレンス 1回/月

#### 4. 専攻医研修目標到達項目

A：目標に到達

B：目標に近い

C：目標に遠い

	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
適切な問診と正確な理学所見がとれる						
確定診断のための検査計画ができる						
補助検査の指示、遂行ができる						
患者、家族と良好な信頼関係を築きインフォームできる						
画像所見が的確に読める						
適正な診療録と速やかな退院時要約書の作成ができる						
ステロイドや抗菌薬などの適正な薬物治療ができる						
気管支喘息患者等にたいして自己管理指導ができる						
在宅酸素療法や鼻マスク陽圧人工呼吸の指導ができる						
救急患看に対して初期治療ができる						
胸腔ドレナージおよびチェストドレーンバックの管理ができる						
一般的な気管支鏡の処置ができる						
肺癌症例に対して治療計画が立案できる						
肺癌症例に対して化学療法計画が立案できる						
疼痛緩和などのターミナルケアができる						
他職種と情報を共有してチーム医療を提供する						
症例報告などの学会活動と論文の投稿ができる						
医学生や研修医の指導ができる						